

---

# 東京都微生物検査情報

## MONTHLY MICROBIOLOGICAL TESTS REPORT, TOKYO

---

第 39 卷 第 10 号  
2018 年 10 月号  
月 報

 東京都健康安全研究センター

*<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>*

---

ISSN 1883-2636

## 平成 29 年の食中毒発生状況

平成 29 年に全国および東京都内で発生した食中毒事件の概要と特徴について、厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課並びに東京都福祉保健局健康安全部の資料に基づいて紹介する。

### 1. 全国における食中毒発生状況

食中毒事件総数は 1,014 件、患者数は 16,464 名（死亡者 3 名）であり、事件数は前年比 0.89、患者数は前年比 0.81 であった。そのうち原因物質不明は 29 件（2.9%）、患者数 599 名（3.6%）であった。

事件数を原因物質別に見ると、細菌性食中毒は 449 件（44.3%）、前年比 0.94 でやや減少した。原因菌別の第 1 位は、平成 15 年以降連続してカンピロバクター 320 件（31.6%）、サルモネラ 35 件（3.5%）、ウエルシュ菌 27 件（2.7%）、黄色ブドウ球菌 22 件（2.2%）、腸管出血性大腸菌 17 件（1.7%）、その他の病原大腸菌 11 件（1.1%）、腸炎ビブリオ 7 件（0.7%）、セレウス菌 5 件（0.5%）、その他の細菌が 3 件（0.3%）、ボツリヌス菌 1 件（0.1%）、エルシニア・エンテロコリチカ 1 件（0.1%）であった。その他の細菌 3 件のうち 2 件は A 群溶血性レンサ球菌、1 件はエシェリキア・アルベルティイによるものであった。

細菌性食中毒の患者数は 6,621 名（40.2%）、前年比 0.88 でやや減少した。患者数の多い原因菌は、カンピロバクター 2,315 名、ウエルシュ菌 1,220 名、サルモネラ 1,183 名、その他の大腸菌 1,046 名であった。1 事件あたり患者数 500 名以上の大規模食中毒の発生はなかった。

また、8 月には広域的な集団食中毒事例として、腸管出血性大腸菌 O157（VT2）による事例が飲食店や惣菜チェーン店など関東地方を中心に多発して 1 名が死亡した。惣菜チェーン店を原因施設とする食中毒事例においては、患者のほとんどがサラダ類を喫食していたが、原因の特定には至らなかった。

一方、ノロウイルスによる食中毒は、事件数 214 件（21.1%）、患者数 8,496 名（51.6%）であり患者数は最も多かったが、前年比は事件数 0.60、患者数 0.75 と減少した。1 事件あたり患者数 500 名以上の大規模食中毒は、1 月に和歌山県で学校

給食の「磯和え」を原因とした患者数 763 名の事例と、2 月に東京都において学校給食の「親子丼」を喫食した患者数 1,084 名の事例の計 2 事例が発生した。この 2 事例はどちらも同じ製造者の「きざみのり」が使用され、仕入れ先の未開封品「きざみのり」からノロウイルスが検出されている。

平成 25 年より食中毒病因物質の種別に追加されたアニサキスによる食中毒は、230 件（22.7%）で前年比は 1.85 に増加していた。クドアによる食中毒は 12 件（1.2%）であった。化学物質による食中毒は 9 件（0.9%）、植物性自然毒は 34 件（3.4%）、動物性自然毒は 26 件（2.6%）であった。その他の 4 件はカンピロバクター及びサルモネラ、サルモネラ及び腸炎ビブリオ、サルモネラ及び腸管出血性大腸菌といった混合感染による事例と 1 件は黄色ブドウ球菌エンテロトキシンによると疑われた事例であった。

食中毒による死亡者は 3 名で、その原因菌は前述の腸管出血性大腸菌 O157、ボツリヌス菌、植物性自然毒（イヌサフラン）によるものであった。

### 2. 東京都における食中毒発生状況

都内の食中毒発生状況は、事件数 132 件（患者数 2,628 名）、死者数 1 名であった。平成 28 年の事件数 136 件（患者数 2,309 名）と比べ、事件数は 0.97 で減少、患者数は 1.14 でやや増加した。食中毒 132 件中、細菌によるものは 57 件（43.9%）であった。原因菌ではカンピロバクターが最も多く 45 件（34.1%）、以下、黄色ブドウ球菌 4 件（3.0%）、ウエルシュ菌 4 件（3.0%）、ボツリヌス菌、その他の大腸菌、セレウス菌、その他の細菌（A 群溶血性レンサ球菌）が各 1 件（0.8%）であった。細菌性食中毒の患者数は 821 名（31.2%）、前年比 0.69 で減少した。患者数では、カンピロバクター 296 名、次いでウエルシュ菌 276 名、その他の大腸菌 177 名で、患者数 100 名以上の大規模な事件は、耐熱性毒素様毒素遺伝子（*astA*）保有大腸菌による事例（患者数 177 名）があり、原因食品は「和風のりパスタ及びオクラとちくわの和え物」であった。死亡した 1 名は蜂蜜の摂取が原因と推定された乳児ボツリヌス症によるものであった。

ノロウイルスによる食中毒は、事件数 25 件 (18.9%)、前年比 0.49 と減少したが、患者数は 1,616 名 (61.5%) と前年比 1.51 の増加が認められた。平成 29 年はノロウイルスによる患者数 1,084 名の大規模な事件が 1 事例あり、前述したように学校給食で提供された「きざみのり」が原因食品であった。

アニサキスによる食中毒は 47 件 (35.6%) 発生し、平成 29 年の食中毒事件数では最多で、前年比 2.24 で増加した。クドアによる食中毒は 1 件

であった。

平成 29 年は化学物質、植物性自然毒、動物性自然毒による食中毒の発生は無かった。

また、原因物質不明の食中毒は 1 件 (患者数 112 名) あり、高校の防災訓練において提供された食事が原因で発生した。

(食品微生物研究科 尾畑浩魅)

表. 平成 29 年の食中毒発生状況

原因物質	全国			東京都		
	事件数(%)	患者数(%)	死者数	事件数(%)	患者数(%)	死者数
細菌	サルモネラ	35 ( 3.5)	1,183 ( 7.2)	—	—	—
	黄色ブドウ球菌	22 ( 2.2)	336 ( 2.0)	—	4 ( 3.0)	42 ( 1.6)
	ボツリヌス菌	1 ( 0.1)	1 ( 0.0)	1	1 ( 0.8)	1 ( 0.0)
	腸炎ビブリオ	7 ( 0.7)	97 ( 0.6)	—	—	—
	腸管出血性大腸菌	17 ( 1.7)	168 ( 1.0)	1	—	—
	その他の病原大腸菌	11 ( 1.1)	1,046 ( 6.4)	—	1 ( 0.8)	177 ( 6.7)
	ウエルシュ菌	27 ( 2.7)	1,220 ( 7.4)	—	4 ( 3.0)	276 ( 10.5)
	セレウス菌	5 ( 0.5)	38 ( 0.2)	—	1 ( 0.8)	2 ( 0.1)
	エルシニア・エンテロコリチカ	1 ( 0.1)	7 ( 0.0)	—	—	—
	カンピロバクター	320 ( 31.6)	2,315 ( 14.1)	—	45 ( 34.1)	296 ( 11.3)
	その他の細菌	3 ( 0.3)	210 ( 1.3)	—	1 ( 0.8)	27 ( 1.6)
	総数	449 ( 44.3)	6,621 ( 40.2)	2	57 ( 43.9)	821 ( 31.2)
ウイルス	ノロウイルス	214 ( 21.1)	8,496 ( 51.6)	—	25 ( 18.9)	1,616 ( 61.5)
	その他のウイルス	7 ( 0.7)	59 ( 0.4)	—	—	—
	総数	221 ( 21.8)	8,555 ( 52.0)	—	25 ( 18.9)	1,616 ( 61.5)
寄生虫	アニサキス (シュードテラノーバを含む)	230 ( 22.7)	242 ( 1.5)	—	47 ( 35.6)	51 ( 1.9)
	クドア・セプテンペンクタータ	12 ( 1.2)	126 ( 0.8)	—	1 ( 0.8)	14 ( 0.5)
	総数	242 ( 23.9)	368 ( 2.2)	—	47 ( 36.4)	65 ( 2.5)
化学物質	化学物質	9 ( 0.9)	76 ( 0.5)	—	—	—
自然毒	植物性自然毒	34 ( 3.4)	134 ( 0.8)	1	—	—
	動物性自然毒	26 ( 2.6)	42 ( 0.3)	—	—	—
	総数	60 ( 5.9)	176 ( 1.1)	1	—	—
その他	4 ( 0.4)	69 ( 0.4)	—	1 <sup>1)</sup> ( 0.8)	14 ( 0.5)	—
原因物質不明	29 ( 2.9)	599 ( 3.6)	—	1 ( 0.8)	112 ( 4.3)	—
総数	1,014 ( 100.0)	16,464 ( 100.0)	3	132 ( 100.0)	2,628 ( 100.0)	1

表1 病原体搬入・検出状況(4種等)\*

2018年10月分

機関名		コレラ菌	赤痢菌	チフス菌	パラチフス A菌	腸管出血性 大腸菌	結核菌
区	千代田区			1			2
	中央区						
	港区					2	
	新宿区					2	
	文京区					3	1
	台東区						
	墨田区					1	
	江東区						
	品川区					4	
	目黒区		18			2	
	大田区		2			2	2
	世田谷区		3			2	
	渋谷区						
	中野区					8	
	杉並区					4	
	豊島区					2	
	北区					4	
	荒川区						1
	板橋区					4	1
	練馬区					3	
足立区					6		
葛飾区					2		
江戸川区					1	1	
市	町田市						
	八王子市					2	
小 計			23	1		54	8
都	西多摩					1	
	多摩立川					1	
	南多摩						1
	多摩府中						
	多摩小平		1			5	
	島しょ						
小 計			1			7	1
合 計			24	1		61	9
健康安全研究センター 検出分			3	2		19	

\*2016年4月より、各保健所から搬入された検体を集計することとした。

表2 検体搬入状況(全数把握対象疾患-五類)\*

2018年10月分

	検体数	2018年累計
侵襲性インフルエンザ菌感染症(菌)	7	32
侵襲性髄膜炎菌感染症(菌)		4
侵襲性肺炎球菌感染症(菌)	9	118
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(菌)	13	73
播種性クリプトコックス症(菌)	1	15
合計	30	242

※2016年4月(第37巻・第4号)から追加

表3 病原微生物検出状況(食中毒関連)

2018年10月分

	菌種名	検体数	2018年累計
細菌	大腸菌		
	毒素原性		4
	組織侵入性		3
	腸管出血性	2	23
	その他・不明		9
	サルモネラ		
	O4		15
	O7		4
	O8		2
	O9		3
	その他	1	4
	腸炎ビブリオ		42
	その他のビブリオ	1	3
	プレジオモナス・シゲロイデス	1	4
	カンピロバクター	17	161
	黄色ブドウ球菌	8	23
A型ウエルシュ菌	6	96	
セレウス菌		1	
赤痢菌	3	4	
ウイルス	ノロウイルス(G I)	8	80
	ノロウイルス(G II)	47	701
	ノロウイルス(G I, G II)	1	13
	ロタウイルス		33
	サポウイルス		22
寄生虫	アニサキス	3	74
	クドア		1
合計		98	1325

表4 HIV 検査数及び陽性数

2018年10月分

	男性		女性		性別不明		合計	
	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数
東京都南新宿検査・相談室	813	6	280	0	0	0	1,093	6
保健所等	169	3	115	0	1	0	285	3
合計	982	9	395	0	1	0	1,378	9
2018年累計	9,369	88	3,712	0	1	0	13,082	88

表5 性感染症検査数及び陽性数

2018年10月分

	梅毒検査		クラミジア遺伝子検査		淋菌遺伝子検査	
	検査数	陽性	検査数	陽性	検査数	陽性
東京都南新宿検査・相談室	1,155	70	0	0	0	0
保健所等	209	4	181	13	97	0
合計	1,364	74	181	13	97	0
2018年累計	10,815	624	2,828	172	2,032	7

表6 定点把握疾患別病原体分離状況（ウイルス）

過去3ヶ月

定点種別	対象疾患名	検出病原体	8月	9月	10月	合計
小児科	咽頭結膜熱	アデノウイルス	1		2	3
	手足口病	エンテロウイルス	1	1		2
	RSウイルス感染症	RSウイルス	3			3
	ヘルパンギーナ	エンテロウイルス	4			4
	不明発疹症	ライノウイルス	1			1
インフルエンザ	インフルエンザ及びインフルエンザ様疾患 (ILI)	インフルエンザウイルスAH1pdm09		4		6
基幹	無菌性髄膜炎	エンテロウイルス	3	1		4

◆東京都微生物検査情報◆

2018年 11月 26日

編集・発行

東京都健康安全研究センター

〒169-0073

東京都新宿区百人町 3-24-1

TEL:03-3363-3213

FAX:03-5332-7365

S0000786@section.metro.tokyo.jp

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>